

# 第4章 参加と協働による環境保全への取り組み

## 第1節 環境教育・環境学習の充実

### 1 環境教育・環境学習の推進

環境保全に対する県民意識を高め、環境保全活動への参加を促していくためには、長期的な視野に立った環境教育や環境学習の推進が必要です。このため、平成18年度においては次の施策を実施しました。

#### (1) とくしま環境学習プログラムの作成

県民・事業者・行政が連携・協働して環境学習を総合的・体系的に進めるため、平成17年12月に策定された「徳島県環境学習推進方針～とくしま環境学びプラン～」の方針を踏まえた「とくしま環境学習プログラム」を作成しました。

この「とくしま環境学習プログラム」では、徳島県環境学習推進方針で示された本県で重点的に取り組むべき分野である「ごみ」「生きもの」「水環境」「太陽（エネルギー・地球温暖化）」のそれぞれについて、具体的な環境学習プログラムの事例やその利用方法を明らかにしています。

#### (2) 「学校版環境ISO」推進事業

##### 「学校版環境ISO」認証取得の推進

「学校版環境ISO」とは、ISO14001などの環境規格を参考に、小・中・高・特別支援学校の児童生徒、教職員が自ら目標を立て、成果をチェックする方法で、学校全体でごみの減量やリサイクル、省エネルギーなどに継続的に取り組む活動を推進しています。

実施校では、児童生徒、教職員がそれぞれの実態に応じた目標を考え、数値的な指標を設定するなど特色ある活動を展開します。認定されると認定証（3年間有効）が交付されます。

表2-4-1 平成18年度「学校版環境ISO」認定校

校 種	市 町 村 名	学 校 名
小 学 校 ( 2 3 校 )	徳 島 市	佐 古 小 学 校
		八 万 小 学 校
		宮 井 小 学 校
		渋 野 小 学 校
	鳴 門 市	入 田 小 学 校
		堀 江 南 小 学 校
	小 松 島 市	板 東 小 学 校
		千 代 小 学 校
	阿 南 市	大 野 小 学 校
		橘 小 学 校
		伊 島 小 学 校
		新 野 東 小 学 校
	美 馬 市	大 谷 小 学 校
		重 清 東 小 学 校
		重 清 北 小 学 校
	三 好 市	佐 野 小 学 校
	石 井 町	浦 庄 小 学 校
	那 賀 町	木 沢 小 学 校
	美 波 町	日 和 佐 小 学 校
		阿 部 小 学 校

	海陽町	宍喰小学校
	上板町	東光小学校
	東みよし町	絵堂小学校
中学校 (14校)	徳島市	加茂名中学校
		入田中学校
	鳴門市	北灘中学校
	阿南市	新野中学校
		那賀川中学校
		羽ノ浦中学校
	阿波市	吉野中学校
	美馬市	木屋平中学校
	三好市	池田中学校
		山城中学校
	石井町	高浦中学校
	美波町	由岐中学校阿部分校
上板町	上板中学校	
つるぎ町	一宇中学校	
高等学校・特別支援学校 (2校)	県立	勝浦高等学校
		新野高等学校

#### 環境教育講座の開催

環境教育の充実に向けて、教員の指導力の向上を図るため、県教育委員会では平成5年度から、環境教育講座を開催し、実践事例の発表や環境教育の内容についての研修などを実施しています。

平成18年度は、県内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員を対象に、徳島県立総合教育センターにおいて「環境学習プログラムを取り入れた環境教育」についての研修を行いました。

#### (3) こどもエコクラブ事業

環境省が進める「こどもエコクラブ事業」は小中学生なら誰でも参加できる環境活動です。参加した子どもたちは、自然観察や調査、リサイクル活動など、地域の中で身近にできる環境活動に自由に取り組みます。平成18年度には県内で30クラブ562人が組織されて、各地域で活動を展開しました。

#### (4) 環境アドバイザーの派遣

環境に関する専門家を環境アドバイザーとして任命し、県民や事業者の皆さんが自主的に実施する講演会や学習会、地域活動などに派遣しています。平成18年度には27名の方を環境アドバイザーとして任命し、合計36回派遣しました。

#### (5) とくしま環境科学機構の設立

県と県内大学の参画により「調査研究」や「情報発信」のほか、環境に関わる人材や団体を養成する機能を持つ「とくしま環境科学機構」が平成18年3月23日に設立され、18年度より県民等を対象とする「とくしま環境学講座」を開講しています。

## 2 環境月間・3R推進月間

環境への負荷の少ない持続的発展が可能な循環型社会の構築に向けて、国民一人ひとりの環境保全に係る意識の高揚を図るため、環境月間・3R推進月間に県民や事業者、各種民間団体の協力のもと、さまざまな行動を行いました。

#### (1) 化学物質セミナーの開催

地震等災害発生時の化学物質リスク対策とリスクコミュニケーションの推進を目的として、平成19年6月21

日に「化学物質セミナー」を開催しました。3事業者からの地震等災害時の被害シミュレーション等によるリスク評価や評価結果に基づく対策の事例紹介とともに、徳島県における化学物質排出状況の説明を行い、約120名の参加がありました。

(2) ごみゼロの日キャンペーンの実施

環境美化に対する意識を高めるため、5月30日の「ごみゼロの日」に、「ごみゼロの日キャンペーン」を実施しました。関係機関や団体、事業所、学校に清掃活動呼びかけ、環境美化意識の向上を図りました。

(3) 3R推進セミナーの実施

循環型社会の形成を推進するため、平成18年10月21日にアスティとくしまで「3R推進セミナー」を実施しました。東京大学生産技術研究所教授の山本良一氏による講演などを行い、約60名の参加者がありました。

### 3 瀬戸内海環境保全月間

瀬戸内海の環境保全思想の普及、意識の高揚を図るため沿岸府県市において昭和48年度から毎年6月を環境保全月間と定め、講習会の開催、広報用印刷物の作成配布等各種普及活動事業を実施しています。

本県における、平成18年度瀬戸内海環境保全月間（6月1日～6月30日）の実施状況は次のとおりです。

(1) 啓発用ポスターの配布・掲示

瀬戸内海環境保全協会の環境保全啓発用ポスターを各種団体、事業場等に配布・掲示しました。

(2) 工場再点検

環境月間に合わせ、工場・事業場の立入検査を実施するとともに、瀬戸内海地域内の事業場、協定工場による排水処理施設の整備状況等について自主点検の実施を推進しました。

(3) 海辺の教室

瀬戸内海環境保全協会、徳島県漁業協同組合連合会、鳴門市の協力を得て、鳴門東小学校（鳴門市）の1～6年生70名を対象に海辺の教室を開催しました。

### 4 河川愛護思想の普及（水生生物による水質調査）

身近な河川の水質を知るとともに、河川の水質保全の必要性を認識してもらうこと及び水質環境の基礎的情報を得ることを目的として国土交通省では昭和59年度から、県では昭和60年度から、徳島市では昭和61年度から、小・中学生等一般市民の参加を得て水生生物による水質調査を実施しています。

平成18年度は、河川愛護月間（7月1日～7月31日）等において、国土交通省では県下の主要一級河川である吉野川・那賀川や穴吹川で、県では県下の小・中学生等へ呼びかけ勝浦川等19河川で調査が行われました。（表2-4-2）

表2-4-2 水生生物調査実施状況

区 分	年 度	河 川 数	地 点 数	参加団体数	参加人員
国 土 交 通 省	H7	2	5	34	481
	8	2	5	28	409
	9	2	5	26	436
	10	2	5	25	348
	11	2	4	15	214
	12	3	6	30	469
	13	3	6	28	587
	14	3	6	17	368
	15	3	6	17	306
	16	3	7	17	471
	17	3	4	11	304
県	18	2	3	3	128
	7	21	59	22	741
	8	21	77	32	932
	9	23	94	35	786
	10	34	142	44	1,499
	11	46	143	49	1,274
	12	41	137	54	1,507
	13	38	128	69	1,716
	14	30	94	41	1,087
	15	27	73	32	935
	16	24	52	33	854
	17	19	39	30	895
18	30	47	33	1,055	

## 5 今後の取り組みの方向性

平成17年12月に策定した「徳島県環境学習推進方針～とくしま環境学びプラン～」に基づき、環境学習プログラムの普及やとくしま環境科学機構による環境講座の開設などにより、環境学習を総合的・体系的かつ効果的にすすめるとともに、各主体の連携・協働を推進します。

また、環境アドバイザーやビオトープアドバイザーの派遣などにより、地域における環境活動を支援します。さらに、こどもエコクラブ事業などにより、実践的な環境学習活動を推進します。